

1

新聖歌78 荒野の果てに

1

荒野(あらの)の果てに 夕日は落ちて
妙なる調べ 天(あめ)より響く
グローリア インエクセルシステオ
グローリア インエクセルシステオ

2

羊を守る 野辺(のべ)の牧人(まきびと)
天(あめ)なる歌を 喜び聞きぬ

3

み歌を聞いて 羊飼(らひ)は
まぶねにふせる 御子(ごし)を拝(ひ)みぬ

4

今日(けふ)しも御子(ごし)は 生まれ給(たま)いぬ
よろずの民(たみ)よ 勇(ゆう)みて歌(うた)え

メリークリスマス

メリークリスマス イエス様(イエスさま)は生まれた
私の罪(つみ)をゆるすために
メリークリスマス イエス様(イエスさま)は生まれた
世界(よ)を救(たす)うために

暗闇(くらやみ)に光(ひかり)を与(たま)えられた
いと高(たか)き神様(かみさま)に 栄光(えいこう)あるように

新聖歌75 神の御子は

神(かみ)の御子(ごし)は 今宵(こよい)しも
ベツレヘム(ベツレヘム)に 生まれ給(たま)う
いざや友(とも)よ もろともに
急ぎゆきて 拝(ひ)まずや
急ぎゆきて 拝(ひ)まずや

オー・カム・レット・アス・アドー・ヒム
O Come Let us adore Him ×3
Christ The Lord クライスト・ザ・ロード

目をあげよ

目をあげよ 王(わ)の王(わ)に 御前(ごまへ)に拝(ひ)し歌(うた)え
賛美(さんび)は主(しゅ)の前に 聖(せい)なる王(わ)の王(わ)に栄光(えいこう)あれ

5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り
3. 個人的な願いの祈り
4. とりなしの祈り

- ・大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため
 - ・瀬戸カルバリーチャペルの成長のため
 - 教会員とご家族の養いと導きと守りのため。
 - 魂の救いと地域の伝道のため
 - インターネット YouTube が用いられるように。
 - 病いや困難と闘っている兄弟姉妹のため
 - ライフアートスタジオのこれからのため
- ウクレレ教室/キッズ英語教室/モンテッソーリ教室
クリスマス・アルバム「Room For Christ」のため

5. 日本と世界の平和を願って...

- 日本の国の霊的回復とリバイバルのため
- アジアの緊張関係にあって日本が用いられるように
- アメリカ大統領とこれからの世界情勢のため
- イスラエルの平和のため

新聖歌77 きよしこの夜

きよしこの夜 星(ほし)はひかり
救(たす)いの御子(ごし)は まぶね(まぶね)の中に
眠(ね)り給(たま)う いと安(やす)く

きよしこの夜 御告(ごこゝろ)げ受けし
牧人(まきびと)たちは 御前(ごまへ)の
ぬかずきぬ かしこみて

きよしこの夜 御子(ごし)の笑(わら)みに
恵(めぐみ)みの御代(ごよ)の 朝(あした)の光(ひかり)
輝(かがや)けり 朗(ほが)らかに

瀬戸カルバリーチャペル Seto LIFE ART Studio

愛知県瀬戸市みずの坂5-64 0561-48-8899
牧師: 倉知契 kei.kurachi@gmail.com



この作品は倉知なのかが描きました

祈りの小径(こみち)

Number:040

クリスマス礼拝 瀬戸カルバリーチャペル

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致しましょう。

2

今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

ルカによる福音書2章8～20節

8 さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。9 すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。10 御使は言った、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。11 きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。12 あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである」。13 するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現れ、御使と一緒に神をさんびして言った、14「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。

15 御使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼たちは「さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか」と、互に語り合った。16 そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を捜しあてた。17 彼らに会った上で、この子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた。18 人々はみな、羊飼たちが話してくれたことを聞いて、不思議に思った。19 しかし、マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。20 羊飼たちは、見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。

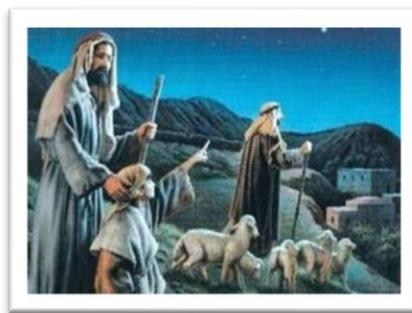
3

黙想とところの投影の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

質問

1. イエス様を見た羊飼いたちは、何を感じ、どんな思いになったでしょう。ご想像ください。



2. あなたにとって今年のクリスマスは、どんなクリスマスですか？

4

みことばの解説

私の大尊敬している牧師に、すでに天に召されていますが西田進先生という方がいらっしゃいます。西田先生の書かれた「ベツレヘムへ～あの途から、この径から」という説教集はクリスマス時期には必ず精読しているほどです。以下はその説教の断片です。

クリスマスにつらなる色々な場面に共通している姿として、「届ける」という様子を見ることができる。「とどける」とは、出すべき・延ばした・目的の場所に行き着くべきものが、期待と予想の通りに、相手のもとに達するようにすることと辞書に示されている。品物でも気持でも良いが、とにかく、当方で思案し考えているだけでは不十分で、相手の所に行きつき、相手の手に入らなければ「とどいた」ことにはならない。片思いでは相手のもとには「とどか」ず、善意だけでは「届けもの」はできない。いわゆる「実行」が伴わなければ、気持ちがいくら高揚していても、相手のもとには届かない。クリスマスは「届ける時」である。心の中で思っているだけでなく、頭の中で考えているだけでなく、手を動かし、足を動かし、体を動かして、相手の許に「届ける」時がクリスマスである。

ルカ2章は「人口調査」から始まりますが、バルバロ神父の日本語訳した聖書には、ヨセフとマリヤは「名を届けるために」ベツレヘムに行ったと書いてあります。名前が届けられることは、その記録に残り、系図となり、その存在の証明でもあります。霊的な意味だけでなく、実際に、キリストが人類の系図の中に名前を残してくださったことは意義深く、神様からの贈り物(お届けもの)が、到着(到来=アドヴェント)したことを表します。あなたはすでに「受取人」のサインをなされたでしょうか？宝の箱を開けたでしょうか？

この人口調査の対象外の扱いを受けていたのが「羊飼い」でした。牧場経営者というより、安い賃金で雇われ、移動しながら生活する、名もなき羊飼いたちに、神の贈り物が届いた！それが聖夜なのです。